

平成27年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 現代に生かす里山再生事業～防災拠点・防災倉庫の整備に向けて～

団体名 「就実・森の学校」 担当者名 石田省三

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日 時	活 動 名	対 象	人 数	備 考
1 4/25 (土)	就実小学校里山ハイク	小学生	50	小学生のハイキング・筍掘り
2 4/26 (日)	春の訪れコンサート	全学・一般	450	出演団体8組・里山ハイキング
3 5/20 (水)	こども園今谷遠足	園児保護者	70	保育園・幼稚園
4 5/22 (日)	闘ウオーク就実・森の学校	中学生	70	ESD活動(里山体験・植生・古墳探索)
5 6/6 (土)	竹灯籠制作体験	大学生	15	大学学友会
6 6/13 (土)	第1回竹炭焼成体験	一般	15	大型炭窯 主催:竹に学ぶ会
7 6/14 (日)	古墳調査	中学生	5	以後不定期で28年度も継続調査
8 7/7 (土)	七夕会	大学生	10	学内七夕会6/6作成灯籠披露
9 7/19 (日)	パンフルート製作体験	一般	20	第1回、以後4回開催予定
10 8/18 (月)	里山資源活用	高校生	60	朝日高校、竹炭焼成
11 8/19 (火)	有森裕子キッズキャンプ	小学生	100	防災食体験(防災教育)
12 8/22 (土)	就実サマーフェスティバル	小中・高・大学生	30	イオンモールイベント
13 9/5 (金)	三幡軽便鉄道式典	一般	200	機関車レプリカ作成(コッペル)
14 9/12 (土)	就実高校文化祭展示	高校・一般	500	「就実・森の学校」活動展示
15 10/3 (土)	三幡軽便鉄道祭り	一般	300	機関車御輿(三幡～国清寺)
16 10/4 (日)	パンフルート製作体験	一般	10	発表会用パンフルート作成
17 10/10 (土)	ノルディックウオーク	一般	20	岡山市里山センター主催サポート
18 10/11 (日)	防災倉庫贈呈式	一般	15	岡山東ライオンズクラブより受領
19 10/30 (金)	小学校こども園ハイク	園児・小学生	120	合同里山体験
20 11/1 (日)	岡山ドームイベント	こども園	300	竹細工体験(ヤジロベエ・竹笛)
21 11/3 (火)	秋の町はなフェア	一般	200	西川アイプラザ
22 11/7 (土)	岡山県技術士会講演会	技術士	60	講演「里山今昔」他 竹炭焼成
23 11/14 (日)	炭焼き体験	一般	10	大型炭窯 主催:竹に学ぶ会
24 11/22 (日)	パンフルート製作体験	一般	10	演奏練習 会場:里山センター
25 11/29 (日)	鳥池湿生園整備作業	一般	3	「富山エコクラブ」支援
26 12/6 (日)	TSCノルディック	一般	30	ウオーク及び炊飯
27 12/6 (日)	竹林資源利用講座	大学生	15	炭焼き竹材利用主催:竹に学ぶ会
28 12/12 (土)	竹楽器作り講習会	大学生	60	教育学部音楽講義支援
29 12/13 (日)	古墳巡り		10	古墳見学 主催:竹に学ぶ会
30 12/20 (日)	パンブリーハウス体験	小中一般	30	竹ブリーハウス20棟
31 1/23(土)	炭焼き体験	スタッフ	6	大型炭窯
32 1/24 (日)	古墳巡り(古墳整備)	一般	10	古墳整備 主催:竹に学ぶ会
33 2/14 (日)	アカマツ植林	中高一般	45	モモタロウ松 500本

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

本活動を始めて6年目を迎える。本団体は敷地のおよそ7割を竹林が占めている学校林をフィールドとして、自然環境、資源、歴史遺産の保護、地域の変容などを調べる活動を目標に活動をすすめている。27年度は主に次の4点を重点目標として活動した。

1. 防災拠点・防災倉庫の整備

南海トラフ地震の危険性が叫ばれている。岡山県南の広大な干拓地には標高0m地帯が広がっており、東日本大震災級の地震が発生すると広範囲に液状化が起こり、数時間後にはおよそ3mの津波が押し寄せると推定されている。干拓地の北に位置する「就実・森の学校」では、かかる地震に備えて校地の一部を防災拠点（緊急避難地）として整備し、防災倉庫を設置するなどの対策を始めている。現在、倉庫には「森の学校」で生産した緊急時に使用する燃料（竹炭約200kg〔28年2月現在〕）、七輪、ヘルメット、スコップ、米など緊急用炊飯機器や水、食料などの備蓄を始めている。今後は年間1棟を目標に防災倉庫を増設していく予定である。また避難地に至る避難路の整備も進めている。

この活動を通して地域の防災に少しでも役立つことが出来ればと考えている。

2. 歴史遺産の保護、教育活動

校地内には8世紀後半頃のものと思われる24基の古墳が存在する。「就実・森の学校」ではこの生きた歴史遺産を次世代に伝えるため生徒・学生と共に古墳の整備、保護活動をすすめている。一般参加の方も徐々に増加し、共に古墳の保護管理について検討しながら活動している。

3. 竹林を中心とした山林整備活動

校地内の竹林は、長く放置状態であったため、新旧の竹が入り乱れ、屋なお暗い状態となっており、分け入るのも難しいところが広範囲に残っている。「就実・森の学校」の整備の要はこの竹の間伐、整理である。27年度も整備活動を通して、里山のあるべき姿を生徒・学生とともに考えてきた。

4. アカマツ林再生活動

現代から未来に続く里山づくりをすすめていくためには、レクリエーションの森や、植生を調べる森など現代の若者が興味を持つ側面を作り出す工夫も必要である。アカマツ林の植林もその一つの試みで、生徒や学生達はかつての植生の再生と産物としての松茸の生産を期待しながら活動を続けている。平成27年度末で約4,000本のアカマツの植林が完了した。植林活動は今年度で一区切りとし、今後は下草の除去を中心とする管理を進めることにしている。

3. 取組の成果（参加者の変化、感想など）

本団体の年間行事は4月の「春の訪れコンサート」から始まる。4回目を迎えた今年のコンサートにはおよそ450名が参加者した。参加者の多くから「岡山の市街地近くにこのような自然豊かなところがあり、しかも手入れが行き届いている所があるとは知らなかった。是非また来たい」という声がよく聞かれる。このような声を聞くと今後もこの活動を続けていこうと元気が湧いてくる。

また、今年度から本格的に始めた防災関連活動に対する一般の方々の関心は高く、特に干拓地に居住している方々からは、「就実・森の学校」の活動を是非継続的に進めてほしいとの声が多く寄せられている。現在は（公財）公園協会や岡山市危機管理室と連絡を取りながら整備を進めているが、今後一層の努力を続けていきたいと考えている。

4. 今後の課題と展望

里山づくりを進めていく上で最も大切なことは、継続と広がりである。本活動を初めて6年が経過する。その間ボランティアを中心に作業や活動を行ってきたが、山での作業は肉体的にも負担が大きいため、ボランティアを集めることには困難を伴う。このボランティアの確保が最も大きな課題である。

また、里山づくりは周辺の方々との協力し合うことが大切である。現在は隣接する富山エコクラブと協力関係にあり、また27年度には岡山市及び操山公園里山センターとも連携協定結ぶことが出来、より一層の協力範囲が拡大した。今後も周辺地域のグループと連絡を取り合い活動範囲を徐々に広げていきたいと考えている。

「就実・森の学校」 緊急避難地(岡山市中区今谷・長楽寺南)



防災倉庫 岡山東ライオンズクラブから



炭釜から竹炭を搬出



初回の竹炭の貯蔵風景



災害時の緊急炊飯グッズ(猫袋)



一合、約20分で出来上がり



食事前



里山再生活動の一日



避難路路上の倒木処理



避難経路を地図で確認



「就実・森の学校」将来構想図

